



防災行政無線が聞き取りにくい場合は☎(48)7030へ問い合わせてください。最新のメッセージを聞くことができます。

第31回阿久比町 消防団消防操法大会



全力で競技に
臨む団員

防災への意識改革

96

安全
まちづくり
住みよい
ニュース

防災交通課
☎(48)111
(内208)

九月二十八日、阿久比スポーツ村第二駐車場で「第三十一回阿久比町消防団消防操法大会」(小型ポンプ操法)が開催されました。

小型ポンプ操法は、指揮者一人と操作員三人、吸管補助員一人の計五人のチームで行います。指揮者の「操作始め」の号令で、指揮者と一番員が二重巻きホース三本を火点前まで延長します。二番員、三番員はポンプ後方に吸管を取り付け、布水槽に吸管を投入し、水を給水後、一番員の「放水始め」の伝達により送水し、指揮者が標的を落下させます。標的落下までの基準タイムは四十五秒です。

待機線に整列したところから、解散までの、土気、規律、迅速な行動、チームワーク、器具愛護などを審査します。標的落下までの所要時間と火点方向にホースが真っすぐ伸びたかが重要視されます。半田消防署阿久比支署員が審査に当たりました。

大会では町内五分団の中から、九チームが出場しました。選手に選ばれた団員は、連日夜間練習を重ねてきました。会場に掛け付けた多くの来賓・家族・消防団OBの声援を受けながら、全力で競技に臨んでいました。

大会結果は次のとおりです。

(敬称略)

- 【優勝】第三分団二号車
- 【準優勝】第三分団一号車
- 【第三位】第一分団一号車
- 【敢闘賞】永井宏享(萩)、高橋光(宮津団地)、佐藤康之(草木)、竹内友寿(矢口)

小学生が耐震化について学習

10月1日、南部小学校で「耐震まちづくりモデル講座」(愛知県建築指導課主催)が開かれました。

講座を受講したのは6年生の児童で、講師に名古屋大学大学院環境学研究科護雅史准教授を迎えて、耐震の仕組みや命の大切さを学びました。

耐震化の話聞いた後、児童たちはグループでストローを使い、骨組みだけの家を作りました。実験を続けて、筋交いを入れることで家が丈夫になることを検証しました。子どもたちは「耐震の必要性がよくわかりました」と話していました。



ストローハウスを使い耐震構造を学ぶ南部小児童